

# 清流

編集・発行  
豊橋市立中部中学校  
豊橋市舟原町154  
電話0532-54-8108  
Fax 0532-57-1963

## 回想 あたりまえの日常

校長 崎下 謙二

令和四年、寅年が明けました。デルタ株の猛威が急速に収まりほっとしたのも束の間、オミクロン株による第六波が世界中を震撼させています。（本紙発刊の頃は収束していることを願っています） 我慢と自粛の日々が日常として定着しつつある中、あたりまえの日常とは何かを考えさせられる昨今です。



【授業風景 2年生】



【オバド Fes 3年生】

昨年十一月、修学旅行で山梨・静岡に行ってきました。目的地と期日を変更してのバス旅行となりました。もちろんマスク着用、行く先々で感染症対策を万全にして実施しました。ホテルの朝食会場では、全員が一堂に会して前を向いての黙食でした。ホテルの企業努力を垣間見る思いでした。そんな不自由な中でも生徒たちは不平・

不満を表に出すことなく、生徒会が掲げている「自由と責任」を自覚し、特別な三日間を満喫しました。友だちのよさを実感した、コロナ禍での忘れられない修学旅行になったことと思います。

人類が新型コロナウイルスと戦っている状況下であっても、富士山は悠然とそびえていました。



【山中湖畔にて撮影】

三年生のみなさん、卒業おめでとうございます。かけがえない中学校生活が制約の多い日常となりましたが、友だちと

わくわくして過ごした楽しい思い出を胸に、笑顔ではばたいてほしいと思います。



【自然体験学習 1年生】

一、二年生のみなさん、かつてのあたりまえの日常は、実はあたりまえではなく幸運で特別なものだったので。今後もしっかりに感謝し、時間を大切に過ごしていきましょう。

保護者のみなさま、学校の様子を参観していただく機会はまだまだ限られています。引き続き新しい日常を支えていただきますよう、お願いいたします。

## 誰もが安心してできる中部中校区へ

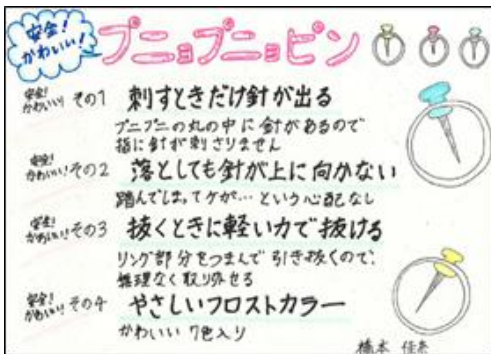
一年五組 竹内 厚喜

総合的な学習の時間に行った福祉学習を通して、僕の思っていた以上に体の不自由な人が大変だと実感しました。たくさんのお話方法やバリアフリーなどありますが、それでも障がい者の人と僕たちでは、まだ大きな差があります。特に、心のバリアは精神的なものなので、人が寄り添い、心から接しないといけないと思いました。

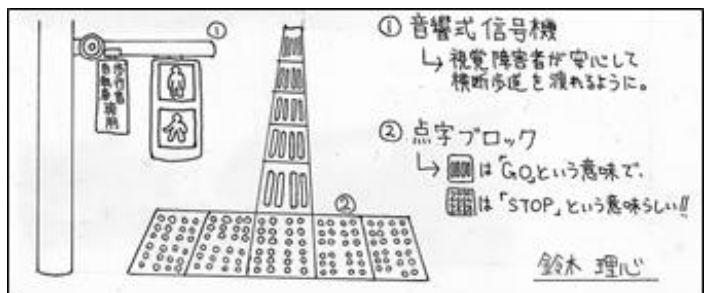
中部中校区の調査では、豊橋駅前を中心に多くのバリアフリーがあることを知りました。今後は、僕たちが地域のサポーターとして行動することで、もっと安心して暮らせる町にしていきたいです。



福祉体験DAY



おすすめのユニバーサルデザイン調べ



中部中校区バリアフリー探し

## 夢 働くことは生きること

〜 将来の生き方、働き方を考えよう！

二年一組 高橋 朋寛

今年、たくさん行事がある中で、特に楽しみにしていた職場体験学習が、コロナウイルスの影響で残念ながら中止となってしまいました。

しかし、たくさん地域のかたや保護者のかたのおかげで、形を変えて「働くこと」について学ぶ機会をいただくことができました。CHU BU プロフェッショナルと題し「働くこと」について講演をしていただきました。ご協力いただいた先生がたの話をもつていくにつれ、今まで気づかなかつただけで、僕の生活と「働くこと」は密接に関わっているとわかりました。学習を通して、僕たちの生活を支えてくれていた皆さんの「働くこと」に感謝して生活することが大切だと感じました。

中学生の僕たちは仕事について考える時間がたくさんあります。ゆつくり向上心をもって、苦労しても楽しいと思えるような自分に適した職を見つけたいです。この先、大きな壁にぶつかり、くじけそうになっても今回の学習で知った「失敗も一つの経験」という言葉を胸に刻んでいこうと思います。物事をポジティブにとらえ、挑戦を続け、一歩ずつ自分の目ざす自分に近づいていけるように取り組んでいきたいです。



## 仲間と成長

八・九組担任 朝倉なつ美 尾方宣仁

4月に生徒たちとどんな学級にしたいか、話し合いをしました。その結果、「助け合い 仲間を許すやさしさを」という学級目標を立てました。この一年間、特に仲間と一緒に助け合う姿が印象に残っています。

仲間を手伝ったり、時には不安定になる仲間を静かに見守ったり、「私もそういうときあるよ。」と言葉をかけたたりなど、温かさを感じる場面が多くありました。また、できることをどんどん増やして、充実感あふれる様子も見ることができました。

勉強はもちろん、自分の気持ちをきちんと伝えられた、交流学級でも行事や授業を頑張った、などたくさん成長がありました。それは担任としても非常にうれしい瞬間でした。これからの成長も楽しみです。



## 僕らが作る未来

三年六組 水谷 英司

「今年こそは通常の学校生活に戻るかも」という期待とともに、四月に新学年が始まるのは二年ぶりでした。しかし、五月に緊急事態宣言が発令され、その後も厳しい状況は変わりません。オバド Eos や修学旅行も延期…。生徒みんなが楽しく明るい思い出をつくるために生徒会長として、執行部や先生がたと限られた状況で何ができるのか、何を残せるのかを必死で考えました。

これからも不透明な時代が続くかもしれませんが、けれど、この一年を乗り越えた僕らなら、輝く未来を作り上げていけるはずですよ。



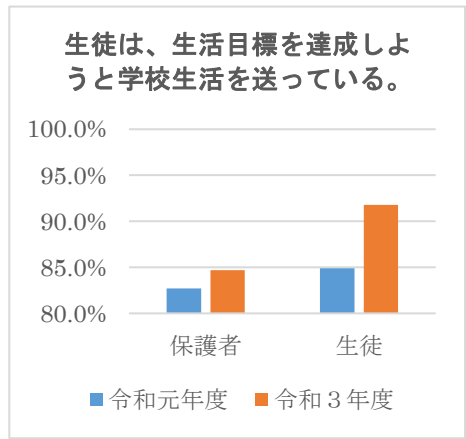
学校評価アンケートより

教頭 澁谷礼史

本校では、七月と十二月に学校評価アンケートを実施しています。その結果を分析し、教育活動の見直しを図っています。対象は、生徒・保護者・職員で、調査項目は、学校全般・学力の保障(確かな学力)・キャリア教育・豊かな心、健やかな体・教師の力量向上・地域との連携・安全安心な環境の七領域で、三十六項目です。「1とても思う」「2やや思う」「3あまり思わない」「4全く思わない」から選択します。今回は、肯定的意見(「1とても思う」「2やや思う」を合計したもの)の数値が過去三年間の調査のなかで、生徒、保護者ともいちばん高かった項目について紹介します。

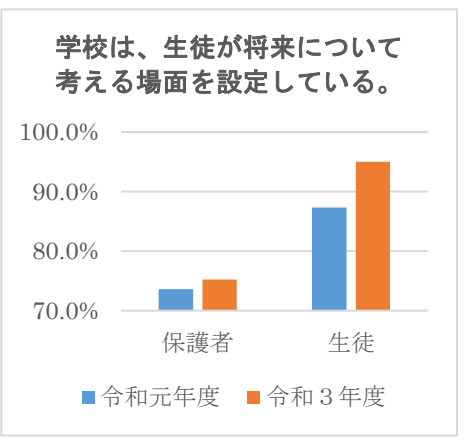
上の三つです。今年度は、昨年度に引き続きコロナ禍での活動であったため、大きな声を出すことができなせんでした。オバドFesの応援合戦でも、声は出さず鳴り物と振りで団結力をアピールしました。しかし、どの目標項目においても、生徒は一生懸命取り組んでいたと思います。地域のかたから話を伺うと、「こちらから挨拶をすると元気なあいさつが帰ってくる。中学生から積極的に挨拶をしてくれるともっとうれしい」という答えが返ってきました。

二つ目の項目は、「学校は、生徒が将来について考える場面を設定している」です。二年前の第2回調査と比べると、生徒は八十七・三%から九十二・七%に、保護者は七十三・六%から七十五・二%に上昇しています。本校では、主に二年生の総合的な学習の時間において将来の生き方(職業)に関する学習を行います。例年は職場体験学習も行いますが、今年度は、昨年度と同様にコロナの関係で実施できませんでした。そこで、今年度の二年生は「働く人の話を聞く」こ



とを主眼に置き総合的な学習に取り組みました。二年生の保護者のかたから、地域や豊橋を拠点として働くかたまで幅広い分野の方々の協力をお願いいただき、生徒は十回を超える話を聞く場面ができました。その取り組みの様子も、生徒だけでなく、保護者のかたがたにも伝わったと思います。

一方、アンケートから見えてくる課題として、「地域との連携」があります。例えば今回の調査で「地域のかたは、学校の行事や生徒会活動などの教育活動を知っている」の項目に対し保護者のかたの肯定的意見は、六十五・八%と全質問項目でいちばん低い回答率でした。また、「生徒は、地域の行事に参加し、地域とのつな



りを持つている」の項目に対し生徒の肯定的意見は、七十七・一%でした。これは保護者や教職員の回答率よりも低く、生徒自身も地域とのつながりがあり強くないと感じているようです。この傾向はコロナ禍である今だけでなく、一昨年と同じような傾向を示しています。小学生と比べ、中学生になると生徒の交友関係が広がるとともに、部活動などにより休日の地域の行事に参加しにくい状況があると思えますが、次世代の地域を支える人材を育成する意味でも、自治会等の地域と連携した活動を考えていく必要性を感じました。